

日交研シリーズ A-673

平成 27 年度研究プロジェクト

「企業間 (BtoB) 小口貨物輸送需要に対応した宅配便ネットワークの構築に関する研究」

刊行：2016 年 11 月

企業間 (BtoB) 小口貨物輸送需要に対応した宅配便ネットワークの構築に関する研究

Construction of the Parcel Delivery Network Corresponding to Demand for B to B LTL

主査：林 克彦 (流通経済大学教授)

Katsuhiko HAYASHI

要 旨

企業間 (BtoB) 貨物輸送需要は、貨物の軽薄短小化に加え在庫削減の取組によって、多頻度小口化が著しい。従来、企業は小口貨物輸送を特別積合せ輸送に多く依存してきたが、小口化の進展に伴って宅配便を利用するケースが増大している。最近では、翌日配達、時間指定配達、温度管理等の輸送品質面で、宅配便を高く評価し積極的に利用する企業が増えている。

一方、宅配便事業者は、もともと個人間 (CtoC) の小口輸送需要をベースに取り扱ってきたが、増大する BtoB 小口輸送ニーズにも積極的に取り組んでいる。企業貨物の場合、単なる輸送に留まらず、保管、在庫管理、流通加工等、様々なサービスが求められることから、企業向けに宅配便を組み込んだ 3 PL サービスを提供する事業者もある。

宅配便事業者は、通販等の BtoC 需要の高度化に対応して、当日配達ネットワークを全国に拡大しようとしている。なかには、ゲートウェイターミナルを東名大に設置し、昼夜を問わずターミナル間を輸送するという、大規模なネットワークの再構築を開始した事業者もある。ジャストインタイム体制が広がる企業物流において、このような当日配達ネットワークは有効であり、今後 BtoB でも活用が見込まれる。

また、新しい小口貨物輸送需要に着目するうえで、ネット通販サービスの展開にも着目すべきである。ネット通販先進国のアメリカでは、大手ネット通販事業者をはじめとした新しい配送ネットワークの構築や日用品配送サービスが誕生している。さらに、国境を越えた、いわゆる「越境 EC」の登場も通関サービスを含めた小口貨物輸送の今後を考えるうえで重要である。

以上を踏まえ、本研究では BtoB に対応した輸送体制の変化について、宅配便事業を中心にどのような輸送ネットワークの再構築が行なわれているか、さらにそれを利用していかなるロジスティクスサービスが提供されているのか考察を行った。まず、宅配便事業者の BtoB という新しい需要を取り込むためのネットワークとサービスの変化について考察し (1 章)、ネット通販物流の先進国である米国宅配便ネットワークとサービスの現状と近年の動きについてまとめたうえで (2 章)。次に、当日配達のための宅配便事業者の幹線輸送ネットワークの今後の方向性に関する考察を加えた (3 章)、越境 EC の物流の現状を整理した (4 章)。

キーワード：ネット通販、宅配便、小口貨物輸送、ネットワーク構築、企業間物流、越境 EC

Keywords: Online Shopping, Parcel Delivery, LTL, Network Construction, B to B Logistics, Cross Border Online Shopping